
マイペースな恋物語

依景 吏音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マイペースな恋物語

【Nコード】

N7639L

【作者名】

依景 吏音

【あらすじ】

雪翼学院には特殊な生徒会が存在する。

ある事がきっかけで生徒会の雑用を命じられた篠山柚稀。生徒会と
醍掟部のメンバーで色々な事へ足を踏み入れて行く事に
・・・

壱（前書き）

久しぶりに書いた小説ですね。
内容がごっちゃごっちゃしてる・・・（泣

壱

かごめかごめ
籠の中の鳥は
いついつ出やる
夜明けの晩に
鶴と亀が滑った
後ろの正面
だあれ
．．．．．

雪翼学院 生徒会室

バタバタ

「怜壱、書類整理これで終わりですあ」
「．．．御苦労様。」
「たまには会長もお手伝いお願い致しますよ。僕等だけでは時間が掛かり過ぎます」
「厭。」
「返事が早い事で何よりだねい。即答は困るなあ、怜壱」
「拒否。」
「酷いですよ」
「別に。」

バタバタ

「ふああああ．．．．」
「お、盛大な欠伸だねい」

パンツ

「先輩、大変な事が起きた！」

「会長さん、教室が・・・」

「又かい？最近多くなってきたねい」

「ふああああ・・・」

ノウミ リョウイチ
王深 怜壹

この学院の生徒会会長でありながら、とてもマイペースで呑気者。万年低血圧の寝不足、栄養失調気味。一様はこの物語の主人公（なはず・・・。）

「欠伸ばっかりするな！少しは慌てる、って言う言葉を覚えた方が良いんじゃないの！？」

ササヤマ ユズキ
篠山 柚稀

ある事がきっかけで生徒会の雑用をやっている。勉強は中の上、運動神経は男子並みと言う体育会系。妹と二人暮らしのため料理は得意。

「まあまあ。柚稀ちゃんは落ち着く、って言う言葉覚えた方が良いんじゃないかい？」

ヤタ スズカ
谷田 鈴榎

決して馬鹿ではない（はずだ）が、少々抜けている生徒会書記。売られた喧嘩は買うが座右の銘で喧嘩慣れしている。いつもはヘラヘラしているが怒ると怖い。江戸っ子口調が特徴的。

「う、五月蠅いな！」

「柚稀、怒ってる場合じゃないよー？」

カミヤ
神谷 濡音 ミオネ

勉強はさっぱりだが、運動神経は抜群。喧嘩慣れはしていないが、武道は全般習っていたので強い。天然馬鹿なので空気を読まない事も多々。

「どうやら貴方方は巻き込まれやすい体質の御様子ですね」

ユサウ
遊澤 未邦 ミクニ

敬語や謙譲語、尊敬語を使っている丁寧な対応をする為一部で人気。しかし、自分の思った事をズバズバ言う癖があるので人を傷付ける事も。

「これぞまさにトラブル体質、ってねい」

「五月蠅い。元はと言え・・・」

「柚稀が悪いんじゃない・・・」

「・・・過去を振り返るのはあまり良くないよ、先輩」

「たまには過去も振り返るべきさあ。前だけを向いて歩いて行ける奴なんて早々居ないねい」

「現在進行形で僕達の目の前に居ますが・・・」

「怜壱は過去何か振り返る訳がないだらう」

「想像もしたくありませんね」

「君等僕を何だと・・・」

「ろくでなし（ですね）」

「二人同時たあ凄いじゃないかい。あはははは！！！」

「笑わないでよ、鈴榎」

「はは・・・こりゃあ失礼したねい。でも、笑い事でい」

「・・・（泣）」

「あー、面白いねい・・・って。未邦、どうかしたのかい？」

「血生臭いです・・・」

「血の匂いかい？慣れてるからあまり分らないねい」

「慣れて良い匂いではないよ、鈴榎先輩」

「まあね。この教室かい？」

コクン

「血の匂いが一番濃いねい……面白くなりそうでい……」

式（前書き）

なんか友達がキャラの声優さん決めてくれたんですよ。

・王深怜壺…代永 翼さん
・谷田鈴榎…羽多野渉さん
・遊澤未邦…入野自由さん

まだ出てきてないキャラで

・不知火楔…市来光弘さん
・廻阪 聖…櫻井孝宏さん
・永前拓麻…神谷浩史さん
・永前朔麻…下野 紘さん

ここら辺は徐々に出てきますよ。

式

雪翼学院 学長室

「嫌な位に静かだねい」

「嫌な余興の始まり、ですか？」

「そうだねい」

「本当、くだらない事に僕達を巻き込んでくれますね、学長様は・・
」

「今更何を言い出すんだい、未邦？」「まあ、確かに今更ですが。
今更過ぎて頭に来ると言いますか、何と言いますか・・・」

「と言うより学長さんはどこにいるんだ、先輩？」

「外出中。らしいよ・・・」

「糞爺のせいで時間の無駄になりそうさねえ」

「しかし、今回はその学長様の”魚心があれば水心”次第で雑用が
決まりそうですが、ね」

「何ですか、その魚心がどうのこつの・・・な言葉って？」

「・・・」

「？」

ポムツ

「え！？」

「零音くん、頭は大丈夫な様だねい。何時も通りの様で有り難いさ
あ」

「相手の出方次第で此方にも応じ方が有る、って意味・・・」

「そんなに難しくはありませんよ。単純な諺ですし」

「まあ、敢えて言うなら学長は”常に短し禪に長し”だねい」

「え？」

「・・・」

ポンポン

「遊澤先輩!？」

「中途半端で役に立たない事、だよ・・・」

「漣音に言っても分からないよ、怜壺先輩」

「まあね・・・」

「神谷くんの一つ。生兵法は大傷の元、ですからね」

「はぁ・・・」

「意味分かってるのかい、漣音くん？」

「全然分かんないです」

ポムッ

「もう分かりましたよ!馬鹿、って言いたいんでしょ!」

「いえ、違います」

「阿呆だろい」

「柚稀い!!--!!」

「分かったから。半泣きになってるよ、漣音」

「未熟者が生嚙りの知識でおこ・・・」

バツ

「追い討ちを掛けないでくれるか、怜壺先輩!」

.....コクン

「今迷ったねい」

「会長さんも何気に酷いですよね・・・」

ガチャ

「怜壺様、鈴榎様、未邦様、学長が御戻りになりました」

「やつとかい？」

「大変申し訳ありません」

「たかが遅れた位で謝らなくても良いんじゃない？」

スッ

「鈴榎先輩？」

「ちよつと黙つてなせい」

「？」「この学院のトップは学長様と高等部生徒会会長様。つまり、あの学長様に仕えてる御人は学院のトップを待たせた事になります。それは学長様に仕える”咎”としてはかなりの罪になり、罰をも与えられるでしょう。会長さんが御頭を御上げて良いと仰れば話は別ですが……………」

「頭、上げて……罰はしなくて良いよ……」

「勿体ない御言葉です」

「うんうん。怜壺くんは優しいね！さっすが怜壺くん！」

「誰、あの人？」

「学長でい」

「鈴榎先輩。エープリルフルは終わったよ」

「冗談、偽り、嘘。どれでもありませんよ」

「正真正銘の学長。」

「はあ！？」

「嘘ですよ！！」

参（前書き）

また声優さんを決めてましたね、友達は・・・

今回は一人だけですが。

・篠山柚稀・・・喜多村英梨

ですね。

イメージにあってなくてもそこは大目に見て下さい）。・・・。

参

「只今帰ったよ、怜壱君！いや、待たせてしまつて申し訳ないね！」

「ウザイねい」

「ええ。全く持ってウザイです」

「それで！今日は何の用なんだい！？怜壱の頼みなら何でも聞いちやうよ、ボク！」

「近寄るんじゃないでさあ」

「お近付きにならないで頂きたいです」

「酷いなあ。あ、そうそう。今日は珍しい子を見掛けたんだよ」

「「珍しい子？」」

「あ。」

「馬鹿だねい」

「同情して差し上げなくても宜しいのでは無いでしょうか？」

「まあ・・・良いか・・・な」

「良くは無いねい。あんなのが居たら目障り極まりないからさあ。全く・・・」

「それには同意致しましょう」

コンコン

「あ、来たんだね!」

「人を呼び出しといて其の様なんや・・・」

「黙ってなせえ。確かに此処の学長は馬鹿で阿呆で役に立たないかも識れねえがねい・・・利用価値は十分に有るんでさあ!」

「どんな説得の仕方だよ、鈴榎先輩!!!?」

「ナイス突っ込みだねい、柚稀ちゃん」

「まあ、突っ込みの為に創られた様なキャラですからね」

「違っわ、未邦先輩!!!」

「五月蠅い女が居るなあ。誰、あんたら?」

「ゆ、柚稀落ち着いて・・・」

「零音、落ち着いたら苦労はしないんだよ!」

「おい、無視しんなや」

「黙れい」

「五月蠅いですよ、御二方」

「学長もでさあよ」

「え!ボクもなの!??」

「おい、いい加減にせいや・・・!!」

「何？」

「だから誰や言つてんねい・・・!!？」

「情報委員の貴方様なら知っていらっしやるかと思ったのですが、
ね」

「全くだねい」

「一年生はまだ調査中やで仕方無いんやて」

「下らないねい」

「人数が多い分・・・時間は掛かるかも識れないね・・・」

「クラス、科、名前を言ってくれると直ぐに解るんやけどな」

「1年C組・料理科専門部の篠山柚稀」

「1年S組・運動学科体育制の神谷澪音です」

「あ。入学早々に問題起こした奴等か」

「入学早々に喧嘩騒動起こした子達って・・・」

「好きで起こした訳じゃない」

「好きで問題起こされても・・・」

「確かにねえ」

「ごもつともですね」

「あれは俺が悪いんであって柚稀が悪い訳じゃ・・・」

「いや、私も悪いから」

「でも・・・!」

「良いよ・・・もう」

「・・・」

「・・・まあしっかし、今回は厄介な問題でさあよ。教室を血塗れにされて生徒にしては切り傷や発熱まで遣ってくれてまあ」

「ええ」

「今回は醍掟部・放送、風紀、情報、生徒会で遣って貰うよ」

永旧劉言（ナガモト ルイ）

雪翼学院の学長で有り、有能だが、かなりの童顔。学生と間違われる事も多数。然し生徒に何か在れば理事長や保護者、PTAをも利用してしまう事も有り、一部の議会では恐れられている

「オレもかよ。阿呆らしいんやなあ」

永前拓麻（ナガサキ タクマ）

特例科情報特別越階怪談所属・情報特別委員会委員長。学院全員（一年生は一部除く）の名前や科、生年月日を全て覚えている程記憶力が高い

「まあそんな事言わないでよ、拓麻君」

「怜ちゃんが居るから遣ってやんよ。今回は、やけどな」

「感じが悪いねい」

「何時もの事ですよ」

「柚稀？」

「・・・」

「
.
.
.
.
.
.
.
.
」

泗（前書き）

行き詰まったあげくのこんな内容です。
。
。
（；）

泗

雪翼学院・集会場

「全校集会なんて考えた馬鹿は誰だい？」

「学長様に決まっていますよ」

「・・・」

「沢山居ますねー」

「うわ、人口密度が半端無いよ」

「あつついんやんなあ、本当に」

「仕方無いだろい」

「少しは黙って居て頂けませんかね？」

「あんたらもやで」

「あ・・・！」

「ん？」

「鈴榎、如何なさいました？」

「あの女・・・」

「あの方は・・・」

「厄介なのが又増えたねい」

「はい」

「会長さん！」

「・・・っ!」

「会長さん、久しぶりです!」

バツ

「!」

「鈴樓・・・未邦・・・拓麻・・・・・・・・?」

「怜壺に近付くじゃないやい。あの時の約束を忘れたとは言わせないぜい?」

「あ・・・うつ!!」

ドサッ

「契約書はちゃんと御書きになりましたよね。言い訳は通用致しませんよ」

「こりゃあ、退学やねえ」

「ちよっ、待ってよ!その子が何したって言うのさ、先輩!?」

「そうですよ!」

「はい、ストップ。」

「え・・・?」

「放送委員会の腕章・・・」

「あんたら新入生には分からないかもしれないねえけどな。色々有ったんだよ、一年前に」

「一年前・・・」

「あの女子生徒・・・谷田と遊澤の目盗んで怜ちゃんに近付いてたんやてえー」

「何だ、来たんだな、永前の片割れ」

「やかやしいわ、我。ちよいと黙ってんかい」

ナカサキ
永前 サクマ
朔麻

拓麻の双子の弟で図書委員会委員長。寝ている事が多く、教室には居るものの存在意義は全く無し。前髪をピンで留めている。兄の拓麻が大嫌いな我儘王子

「ちったあ分かりやすく話しやがれ！」

ノサカ
廻阪 ヒジリ
聖

放送委員会委員長で科学技術指導・政治法学科属。機械には強いが女子供には弱い。一回留年して居て皆よりは年上だが、精神年齢はかなり低い。私服登校しかない問題児

「あんたはんが馬鹿なだけやんけえー」

「喧しいわ、ボケ！」

「自覚があんなら言っなや、屑！！！」

「黙れ、チビ！」

「やかやしいわ、デカ！！！」

バキッ

「お前等が五月蠅いでさあ！少しは静かにしてなせえ！！」

「全校生徒がいらっしゃるのですから、落ち着きなさい」

「はい」

「へいへい」

「反省してないみたいでさあね、廻阪セ・ン・パ・イ」

「うわ、ムカつくな」

「はん。黙れい、この留年野郎」「出席日数が何だつてんだ」

「あー。日数不足で留年したんだねい」

「馬鹿ですか？いえ・・・馬鹿ですね」

「最初の質問の意味が無いねい。文字数不足だけどこれは駄目だろい」

「おや。残念です」

「残念がるない」

「ま、とりあえずは。」

「怜壺、この生徒は追放するべきじゃないかい？」

「・・・」

「追放はいくらなんでも酷いですよ」
「確かに」

「会長さを・・・」

「・・・」

「先輩、逃げんの？」

「・・・」

「その先輩に背中向けて。逃げる気満々じゃん」

「逃げるよ。逃げないと過去のことを繰り返してしまうから」

「過去に捕らわれすぎだよ」

「柚稀には分からないだろうね、こんな気持ち・・・」

「・・・」

「じゃあね」

バキッ

「・・・っ!」

「ありゃあ」

「勇気がおありのことで」

「ゆ、柚稀!？」

「すご・・・」

「あの怜壱を殴った・・・」

「うわ・・・」

「・・・?」

「グダグダ過去に捕らわれた気にいるのも・・・大概にしゃがれ、先輩!!」

ヒュンッ

「わっ!」

「先輩、動くな!」

「無理だよ」

「始まったよ」

「柚稀いー(泣)」

「まあ、いいとしましょう」

ハアハア・・・

「過去なんて変わらないんだよ・・・っ・・・いくら逃げたって過去なんか変えられない。変えたくても変えられない。そんなことくらい先輩なら分かるよな」

「分かる」

「過去が変わらないんなら未来を変えればいいだろ。未来なんて誰にも分からない。識らないんだからさ」

「・・・」

「いくら先輩でも未来にはかなわないだろ？」

「！」

「なら、先輩がこの学院にいるうちに学院の歴史にないことをやればいいじゃん。誰も生徒会長には逆らわないだろ？」

「ゆず・・・」

「校則とか、決まりは守って。他は別に守らなくてもいいだろ」

「・・・」

「ちょいちょい、柚稀ちゃん。君、今何言ったかわかったのかい？」

「自覚がなくては困りますよ」

「へ？」

「こりゃ、わかってないねい」

「ですね」

「？」

「学院の歴史にないことなんてどうやってやる気だい？そもそも、全校生徒の目の前で怜壹を殴るかねえ、普通」

「あ・・・喧嘩なんてどこでやっても一緒だよ」

「怜吉？」

「僕が悪かったし」

「先輩何いつ「喧嘩はどこでやっても一緒。」

「怜吉が言うなら」

「これは喧嘩ですね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7639/>

マイペースな恋物語

2011年1月27日03時47分発行